

生駒市ごみ組成調査報告書

令和2年3月

(株)エックス都市研究所

目 次

1. 調査の目的	1
2. 調査方法	1
(1) 調査対象地区.....	1
(2) 調査対象ごみ.....	1
(3) 調査日程	1
(4) 分類項目	1
(5) その他	1
3. 調査結果	3
(1) 調査対象ごみ量とごみの排出状況.....	3
1) 調査対象ごみ量.....	3
2) ごみ袋の種類別排出状況.....	3
(2) 燃えるごみのごみ組成の実態.....	4
1) 市全体の燃えるごみ組成の推定方法.....	4
2) 地区別ごみ組成調査結果の概要.....	6
3) 生駒市全体平均による燃えるごみ組成の実態.....	10
4) 食品ロスの排出実態.....	13
4. 有料化導入によるごみの減量効果と今後のごみ減量に向けて	14
【資料】	
資料1 地区別燃えるごみ袋の種類別排出状況（今年度調査）.....	17
資料2 地区別燃えるごみ袋の種類別排出状況（平成27年度調査）.....	18
資料3 生駒市町別住宅形式の割り振りと世帯数・人口.....	19

1. 調査の目的

生駒市では平成 27 年 4 月 1 日から家庭ごみの有料化が導入されている。有料化導入による市民の減量意識と行動変化によるごみ減量効果を把握するため、燃えるごみ中の資源化可能物の混入状況を中心とした燃えるごみのごみ組成調査を実施した。

2. 調査方法

(1) 調査対象地区

市内の新住宅地、旧住宅地、マンションから 2 地点ずつ選んで、ごみ組成調査の対象地区とした。なお、2 地点毎に混合して分類作業の対象としている。

(2) 調査対象ごみ

調査対象ごみ量は表 3 のとおり。今年度調査から新住宅地と旧住宅地は調査量を概ね 180kg（今回の調査では 56～65 袋）、マンションは概ね 80kg（同じく 31 袋）を調査の対象とした。なお、見かけ比重は 3 地区全体で 0.170 であり、有料化以降の過去の調査結果とほぼ同じである。

調査対象ごみのサンプリングにあたっては、季節変動の大きな剪定枝や非日常的な引っ越しごみ等がごみ袋にまとまって排出された場合、ごみ組成に与える影響が大きいため調査対象外とすることとしている。このため、サンプリングしたごみ袋数は調査対象ごみ袋数より 2 割程度多くし、新住宅地と旧住宅地は各々 88 袋、マンションは 44 袋とした。

(3) 調査日程

ごみ組成調査の日程は表 1 のとおりである。

表 1 ごみ組成調査の日程

地区	地点	サンプリング	分類作業
新住宅地	南山手台	令和 2 年 3 月 13 日	令和 2 年 3 月 13 日
	美鹿の台	令和 2 年 3 月 13 日	令和 2 年 3 月 13 日
旧住宅地	辻町	令和 2 年 3 月 12 日	令和 2 年 3 月 12 日
	俵口町	令和 2 年 3 月 12 日	令和 2 年 3 月 12 日
マンション	辻町第一東	令和 2 年 3 月 12 日	令和 2 年 3 月 12 日
	セントポリア生駒	令和 2 年 3 月 12 日	令和 2 年 3 月 12 日

(4) 分類項目

分類項目は表 2 に示したとおりである。ごみ有料化導入による市民のごみ減量行動の変化を探れるよう、現在のリサイクル制度において資源化可能な物の排出実態を把握できるように分類項目を設定した。さらに、回収ボックスで回収されている小型家電、発生抑制の観点からリターナブルびん、「水銀に関する水俣条約」の発効、それに伴う「水銀による環境の汚染の防止に関する法律」の制定を考慮し水銀含有製品も分類項目に加えるとともに、食品ロスの排出実態を把握するため、手つかず食品だけでなく、食べ残し等（分類不能な厨芥類含む）を分類項目に加えている。

(5) その他

容積は、一定容量の目盛りが刻まれた容器に入れ、最初のごみ袋計量時は上部を軽くならず程度で、分類後は、柔軟物については上部より一定の圧力（5 kg（約 60kg/m²）程度相当）、硬化物は上部を軽くならず程度で測定した。

なお、牛乳パック、白色発泡食品トレイ、レジ袋、スプレー缶、小型家電、乾電池、蛍光管、その他水銀含有製品、紙おむつは個数も測定した（測定した項目は分類項目表参照）。

写真1 分類作業風景



表2 分類項目表

種類	★マークはあくまで目安 ★容器包装は形状で判断。(例)家庭ラップやサービス業のラップ袋も容器包装とする。
101	きちんと折った新聞紙
102	丸めた、何かを包んだ新聞紙、激しく濡れた・汚れた新聞紙
103	段ボール(ティッシュ箱半分以上の大きさ)★ティッシュ箱～マッチ箱→106、防水加工、激しく汚れ・水濡れ→701
104	本・雑誌
105	牛乳パック(アルミコーティング無し) ※個数 ★上部がラップ製の紙パック含む
106	紙製容器包装(マッチ箱以下の小さな物は701) ★アルミコーティング紙パック、サービス業の袋・箱等含む ★ドロドロの汚れたものは701
107	再生可能な雑紙(パンフ、封筒、紙筒等 ハガキ半分の大きさ以上 禁忌品、シュレッダーくず、汚れ・水濡れの激しい物は701)
108	紙おむつ(ペットシート除く) ※枚数 ★パンツやパッドタイプ
201	プラスチック製容器包装(小さな物、汚れの激しい物は除く) ★サービス業、家庭用ラップ、アルミ蒸着等含む。ハンはダメ。★小さな物や汚れの激しい物は205
202	白色発泡食品トレイ ※枚数 ★汚れの激しい物は205
203	レジ袋 ※枚数 ★汚れの激しい物は205
204	ペットボトル(分別収集対象) ★汚れの激しい物含む
205	汚れの激しいプラスチック製容器包装 (寿司の醤油小袋やフレッシュ等以下の小さな物、汚れの激しい物。下に口を向けたら落ちる容器・袋はきれいと思わず)
301	衣服(上着、ズボン、スカート) フリーマーケットへ出せる物 下着、靴下、寝具等除く
302	綿製品(Tシャツ、シーツ、タオル等) ウェス利用 ★生地表示見る
303	くつ・靴(スリッパは除く、ゴム靴や布製マイバックもOK 革製に限定しない)
400	リターナブルびん ★汚れた物、細かく割れた物は605
401	ワンウェイびん ★汚れた物、細かく割れた物は605
402	缶(飲料缶、缶詰、缶箱等) ★煙草を詰める等汚れた物は605 飲料缶には→
403	なべ・釜等金属製品(複合製品除く)
404	スプレー缶 ※本数
405	小型家電(小さな家電製品すべて) ※個数 ★写真
501	乾電池 ※個数 ★種別個数は記録(筒形=ニッケル系オキシライド、アルカリ電池のEホルタ等も有り、 なお、006p含む。ボタン型、2次=充電式EVOLTA、エネループ、サイクルエナジー等)
502	蛍光管 ※本数
503	その他水銀含有製品 ※個数
601	割れている陶磁器、食器以外の陶磁器
602	割れていない食器(陶磁器)
603	割れていない食器(ガラス製)
605	不燃性捨てる物(ガラス食器、傘等複合金属製品、硬いアルミ製品、日用品ホル残留液体、土砂等) ★割れている陶磁器や食器以外の陶磁器製品は601
701	可燃性捨てる物(ティッシュリサイクルできない紙、シュレッダーくず、禁忌品・小さな紙、布類、プラ製品、ゴム・革製品、ヒモ類、木製品、カド・7mm箔等)
801	調理くず(コーヒー殻・茶殻、ペットフード等含む 動物の敷き藁は804)
802	食べ残し等(分類不能な厨芥類含む)
803	手つかず食品(1/2以上原型有り)
804	剪定枝・生け花
901	ごみ袋(原則有料指定袋。剪定枝、紙おむつは透明・半透明袋排出可。他にボランティア袋有り)

3. 調査結果

(1) 調査対象ごみ量とごみの排出状況

1) 調査対象ごみ量

調査対象ごみ量は表3のとおりである。今年度調査から新住宅地と旧住宅地は調査量を概ね180kg、マンションは概ね80kgを調査対象ごみ量とした。見かけ比重は3地区全体で0.175であり、有料化以降の過去の調査結果とほぼ同じである。

表3 調査対象燃えるごみ量

	袋数	重量(kg)	容積(ℓ)	見かけ比重
新住宅地	56	181.978	977	0.186
旧住宅地	65	183.082	1,066	0.172
マンション	31	80.230	495	0.162
合計	152	445.290	2,538	0.175

2) ごみ袋の種類別排出状況

有料指定袋の大きさ別排出割合は図1に示すように、30ℓが一番多く、次いで15ℓと続き、45ℓの袋の割合は約19%であり、過去の調査結果と比較しその割合は低下(有料化導入直後の平成27年度調査では45ℓの袋の割合は約28%)している。

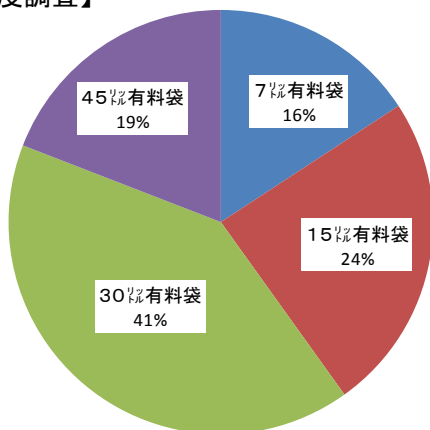
表4 有料指定袋(燃えるごみ袋)の種類別排出状況

	7ℓ有料袋	15ℓ有料袋	30ℓ有料袋	45ℓ有料袋	総計
ごみ袋数	24	37	62	29	152
重量(kg)	40.474	81.248	200.914	122.654	445.290
容積(ℓ)	137	406	1,140	855	2,538
1袋当たりの重さ(kg/袋)	1.7	2.2	3.2	4.2	2.9
1袋当たりの容積(ℓ/袋)	5.7	11.0	18.4	29.5	16.7
見かけ比重	0.295	0.200	0.176	0.143	0.175

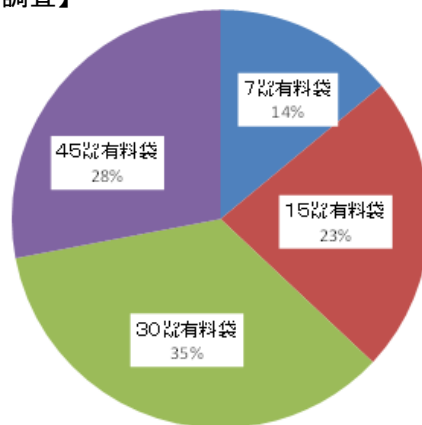
注) 調査対象3地区の単純合計・平均値である。また、容積は分類作業前の軽く上からならず程度の圧力で分類作業後の容積より大きい。

図1 有料指定袋(燃えるごみ)の大きさ別排出状況

【今年度調査】



【平成27年度調査】



(2) 燃えるごみのごみ組成の実態

以下には、調査3地区の燃えるごみのごみ組成と、今回の調査結果から推定した市全体の燃えるごみ組成の実態を整理した。最初に、市全体の燃えるごみ組成の推定方法について整理した。

1) 市全体の燃えるごみ組成の推定方法

市全体の燃えるごみ組成の推定は、3つの住宅形式別燃えるごみ組成の割合に、表5に示す住宅形式別燃えるごみ年間収集量（重量、容積）を乗じ、その値を分類項目毎に合計し、市全体の燃えるごみ収集量に対する各項目割合を求めて算出した。

なお、3地区各々の収集量は表5に示す地区別人口割合で平成30年度（H30.4～H31.3）の燃えるごみの収集量（18,233 t まごころ収集を含む）を地区別に配分し、（配分割合算定の考え方は参考参照。また、住宅形式別人口割合の設定は資料編参照）、容積による収集量は、今回の調査結果から各地区の容積換算係数（＝表5に示す見かけ比重。ただし、一定の圧力をかけて測定した分類作業後の見かけ比重であり、表3に示す分類作業前に測定した見かけ比重と数値は異なる）を求め、その係数を用いて重量から容積に換算した。

各地区の重量と容積による収集量の配分結果は表5に示すとおりであり、新住宅地、旧住宅地、マンションの各収集量と3つの住宅形式別燃えるごみ組成調査結果を用いて市全体の燃えるごみ組成を推定した。

表5 市全体の燃えるごみ組成推定のための住宅形式別燃えるごみ年間収集量（重量、容積）

	新住宅地	旧住宅地	マンション (3階建て以上)	合計
推定人口(人)*1	45,934	49,071	24,620	119,625
(割合)	(38.3%)	(41.1%)	(20.6%)	(100.0%)
H30.4～H31.3 燃えるごみ収集量(t)	6,983	7,494	3,756	18,233
燃えるごみ容積収集量*2(千ℓ)	45,052	47,732	28,241	121,025
(見かけ比重*3)	(0.155)	(0.157)	(0.133)	—

*1 推計人口はR2.3.1現在（資料1参照）。

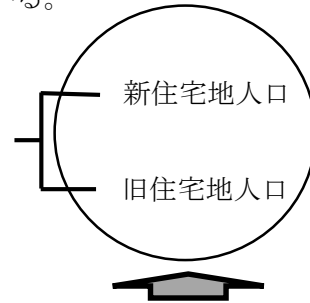
*2 H30.4～H31.3燃えるごみ量÷見かけ比重で算出している。

*3 分類作業後の見かけ比重であり、表3の分類作業前の見かけ比重とは数値は異なる。

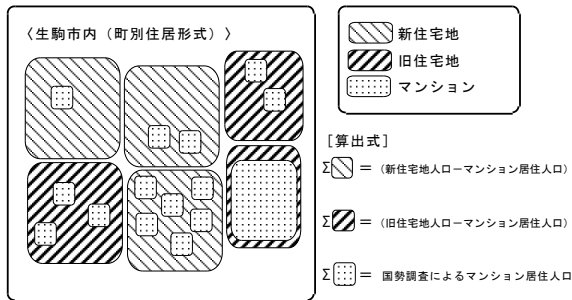
<参考>住宅形式別人口の算定イメージ

住宅形式別人口の算定イメージは下図のとおりであり、新住宅地と旧住宅地は住宅開発の状況から町別に設定し、両者の住宅地に立地するマンション居住人口は、国勢調査（平成 27 年）による町別共同住宅人口（3 階建て以上）とし、町別総人口から共同（マンション）住宅人口を除いた残りの人口を、住宅開発の状況から設定した新住宅地又は旧住宅地のどちらかに町別にあてはめ、当該町の住宅形式別人口とした。詳細は資料 1 に整理している。

$$\text{町別人口 (H30. 3. 1 現在)} - \text{町別共同住宅人口 (3 階建て以上 H27 国勢調査)} = \text{差分人口}$$



住宅開発の状況で新住宅地か旧住宅地か判断



○住宅地開発の状況から町別に新住宅地か旧住宅地かを設定した。

<参考>市全体の燃えるごみ組成の推定方法の例示
(きちんと折った新聞紙の場合)

種類	新住宅地					旧住宅地					マンション					生駒市全体平均				
	重量		容積		枚数	重量		容積		枚数	重量		容積		枚数	重量		容積		枚数
	(t)	(%)	(千t)	(%)	(千枚)	(t)	(%)	(千t)	(%)	(千枚)	(t)	(%)	(千t)	(%)	(千枚)	(t)	(%)	(千t)	(%)	(千枚)
■ 資源化対象物 古紙類	きちんと折った新聞紙	0	0.0			15	0.2				15	0.4				30	0.2			
	a=①×②	②				b=③×④	④				c=⑤×⑥	⑥				d=a+b+c	d/⑦×100			
	段ボール(フィッシュ箱半分以上の大きさ)																			
	本・雑誌																			
■ ごみ(資源化不可物)	捨てる物(燃やす紙くず、埋める物)																			
	丸めた新聞紙、何かを包んだ新聞紙																			
	紙おむつ																			
	汚れの激しいプラスチック製容器包装																			
	ごみ袋(ブラ袋)																			
	ごみ(資源化不可物)合計																			
【調査ごみ全量】	6,983	100.0	45,052	100.0		7,494	100.0	47,732	100.0		3,456	100.0	28,241	100.0		18,233	100.0	121,025	100.0	
	①					③					⑤					⑦				

2) 地区別ごみ組成調査結果の概要

燃えるごみのごみ組成実態について今年度の地区別調査結果を表6、また、有料化導入後の平成27年度の地区別調査結果を表7に示した。以下、有料化導入以降のごみ組成の変化を中心に整理した。

また、今年度調査から『食品ロス（食べ残し、手つかず食品）』の排出実態についても把握した。なお、今年度調査から食品ロスの排出実態把握のため、これまでの一般厨芥類を「調理くず」と「食べ残し」に分けてごみ組成調査を実施し、調理くず（コーヒー・茶殻等含む）は堆肥化による資源化対象物、食べ残し（分類不能・流出水分等含む）は発生抑制・リユース対象物として扱ったため、ごみ組成調査の結果表の食品廃棄物関連の取り扱いが表6と表7では異なる。

以下には、地区別に平成27年度と今年度の地区別調査結果を中心に整理するとともに、全市平均のごみ組成の変化についても整理している。ただし、全市平均の変化については、「3）生駒市全体平均による燃えるごみ組成の実態」において、あらためて整理（表8参照）している。

- ①（きちんと折った）新聞紙、段ボール、本・雑誌、牛乳パックといった従来から分別・回収されていた古紙類については、新住宅地 1.9%（重量割合による H27 調査結果、従来からの古紙の割合計）→2.3%（今年度、同）、旧住宅地 1.3%（H27）→2.3%（今年度）、マンション 3.0%（H27）→2.0%（今年度）で、地区別にはバラ付いているが全市平均では若干増加している（表8参照）。
- ②紙製容器包装や再生可能な紙のようなミックスペーパー（雑がみ）系の古紙類については、新住宅地 8.5%（H27）→10.1%（今年度）、旧住宅地 8.6%（H27）→8.1%（今年度）、マンション 14.3%（H27）→12.6%（今年度）であり、全市平均ではほぼ横ばいである（表8参照）。
- ③プラスチック製容器包装については、表の最下段にきれいなプラスチック製容器包装と汚れの激しいプラスチック製容器を合わせた燃えるごみ中のプラスチック製容器包装の割合を示しているが、新住宅地 10.4%（H27）→9.7%（今年度）、旧住宅地 10.1%（H27）→10.6%（今年度）、マンション 11.4%（H27）→10.9%（今年度）となっており、全市平均ではほぼ横ばいである（表8参照）。分別対象としているきれいなプラスチック製容器包装だけで見ると、新住宅地 1.3%（H27）→0.6%（今年度）、旧住宅地 1.2%（H27）→1.0%（今年度）、マンション 1.1%（H27）→1.0%（今年度）となっており、全市平均では若干減少している（表8参照）。
- ④レジ袋については、新住宅地 10.4%（H27）→9.7%（今年度）、旧住宅地 10.1%（H27）→10.6%（今年度）、マンション 11.4%（H27）→10.9%（今年度）となっており、全市平均では若干減少している（表8参照）。
- ⑤厨芥類（食品廃棄物）の割合は、平成27年度調査では「手つかず食品を含む食品廃棄物合計」、今年度調査では「食品ロスを含む食品廃棄物合計」の欄に整理しているように、新住宅地 43.9%（H27）→43.6%（今年度）、旧住宅地 43.1%（H27）→43.5%（今年度）、マンション 40.2%（H27）→39.0%（今年度）であり、全市平均ではほぼ横ばいである（表8参照）。
- ⑥無駄な食材を買わない、冷蔵庫にある食材を活用して料理を作るなどにより発生抑制する

ことが必要とされている手つかず食品は、新住宅地 7.1% (H27) →6.5% (今年度)、旧住宅地 5.9% (H27) →7.7% (今年度)、マンション 5.1% (H27) →4.0% (今年度) であり、全市平均ではほぼ横ばいである (表 8 参照)。

⑦その他として、ペットボトル、びん、缶等の飲料・食品の容器は、もともと分別排出が徹底されていることもあり、平成 27 年度、今年度調査とも燃えるごみ中への排出割合はかなり低い。

写真 2 燃えるごみに排出されたごみの内容

[手つかず食品]

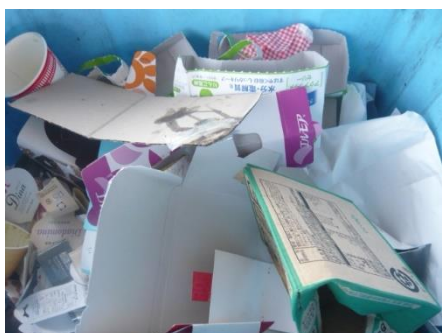
(新住宅地)



[一般厨芥類 (調理くず)]



[紙製容器包装]



[汚れたプラスチック製容器包装]



(旧住宅地)



[一般厨芥類 (食べ残し)]



[紙おむつ]



[小型家電]



表6 調査実測値による調査した3つの住宅形式別ごみ組成調査の結果（今年度調査結果）

種類	過去の調査結果と比較できる項目(小計)					過去の調査結果と比較できる項目(合計)					食品ロス											
	新住宅地		旧住宅地		マンション		新住宅地		旧住宅地		マンション		新住宅地		旧住宅地		マンション					
	重量 (kg)	(%)	容積 (% ³)	(%)	枚数 (枚)	重量 (kg)	(%)	容積 (% ³)	(%)	枚数 (枚)	重量 (kg)	(%)	容積 (% ³)	(%)	枚数 (枚)	重量 (kg)	(%)	容積 (% ³)	(%)	枚数 (枚)		
■資源化対象	古紙類	きちんと折った新聞紙	0.088	0.0	1	0.1	0.338	0.2	1	0.1	0.320	0.4	1	0.2								
		段ボール(ティッシュ箱半分以上の大きさ)	0.512	0.3	10	0.9	0.513	0.3	15	1.3	0.236	0.3	2	0.3								
		本・雑誌	2.451	1.3	5	0.4	2.600	1.4	6	0.5	0.472	0.6	1	0.2								
		牛乳パック(アルミコーティング無し) ※	1.310	0.7	4	0.3	44	0.690	0.4	20	1.7	24	0.594	0.7	15	2.5	16					
		紙製容器包装(汚れた物や小さな物除く)	6.181	3.4	140	11.9	6.627	3.6	130	11.1	3.646	4.5	80	13.3								
		再生可能な雑紙 (ハガキ半分の大きさ以上・禁忌品・汚れた紙除く)	12.165	6.7	60	5.1	8.291	4.5	45	3.9	6.509	8.1	50	8.3								
		小計	22.707	12.4	220	18.7	19.059	10.4	217	18.6	11.777	14.6	149	24.8								
	<何かを包んだ等の新聞紙を含めた古紙類計>	25.088	13.7	250	21.3	20.680	11.3	247	21.2	18.557	23.1	169	28.1									
	古布類	綿製品					0.188	0.1	1	0.1	0.178	0.2	1	0.2								
		プラスチック製 容器包装類	プラスチック製容器包装(汚れた物や小さな物除く)	8.296	4.6	210	17.9	11.108	6.1	220	18.9	4.078	5.1	105	17.4							
		白色発泡食品トレイ ※	0.048	0.0	5	0.4	9	0.102	0.1	15	1.3	23	0.024	0.0	2	0.3	6					
		レジ袋 ※	1.154	0.6	36	3.1	174	1.869	1.0	33	2.8	271	0.774	1.0	25	4.2	107					
		ペットボトル	0.786	0.4	30	2.6	1.021	0.6	40	3.4	0.204	0.3	7	1.2								
		小計	10.284	5.6	281	24.0	14.100	7.8	308	26.4	5.080	6.4	139	23.1								
	ガラス類	ワンウエーびん					0.578	0.3	1	0.1	0.256	0.3	0	0.0								
		蛍光灯 ※																				
		小計	0.000	0.0	0	0.0	0.578	0.3	1	0.1	0.256	0.3	0	0.0								
	金属類	なべ・釜等金属製品(複合製品除く)	0.086	0.0	0	0.0	0.170	0.1	0	0.0	0.044	0.1	0	0.0								
		缶(飲料缶、缶詰、缶箱等)	0.044	0.0	0	0.0	0.424	0.2	8	0.7	0.088	0.1	1	0.2								
		小型家電(小さな家電製品すべて) ※	1.162	0.6	6	0.5	17	0.498	0.3	2	0.2	8										
		スプレー缶 ※					0.166	0.1	1	0.1	3											
		乾電池 ※	0.284	0.2	0	0.0	21	0.182	0.1	0	0.0	8	0.020	0.0	0	0.0	2					
	小計	1.576	0.8	6	0.5	1.440	0.8	11	1.0	0.152	0.2	1	0.2									
陶磁器類	割れている陶磁器、食器以外の陶磁器																					
<参考>資源化対象物合計(食品廃棄物等除く)		34.567	18.8	507	43.2	35.365	19.4	538	46.2	17.443	21.7	290	48.3									
食品廃棄物等	調理くず(コーヒー・茶殻等含む)	47.807	26.3	125	10.7	50.748	27.7	130	11.1	16.805	20.9	45	7.5									
	<参考>食品ロスを含む食品廃棄物合計	79.395	43.6	180	15.3	79.640	43.5	185	15.9	31.220	39.0	85	14.1									
	剪定枝・生け花	0.466	0.3	4	0.3	3.109	1.7	20	1.7	0.157	0.2	1	0.2									
	小計	48.273	26.6	129	11.0	53.857	29.4	150	12.8	16.962	21.1	46	7.7									
資源化対象物合計(食品ロスを除く調理くず含む)		82.840	45.4	636	54.2	89.222	48.8	688	59.0	34.405	42.8	336	56.0									
<参考>食品ロスを含む食品廃棄物等加えた資源化可能物合計		114.428	62.7	691	58.8	118.114	64.6	743	63.8	48.820	60.9	376	62.6									
■発生抑制・リユース対象物	割れていない食器(陶磁器)																					
	割れていない食器(ガラス製)																					
	衣服(上着、ズボン、スカート)	0.502	0.3	2	0.2	0.444	0.2	2	0.2	1.142	1.4	6	1.0									
	リターナブルびん																					
	くつ・靴(スリッパは除く、革製に限定しない)	0.328	0.2	2	0.2	0.504	0.3	3	0.3													
	食品ロス	食べ残し(分類不能、流出水分等含む)	19.683	10.8	15	1.3	14.729	8.1	15	1.3	11.188	14.0	20	3.2								
		手つかず食品(1/2以上原型保持)	11.905	6.5	40	3.4	14.163	7.7	40	3.4	3.227	4.0	20	3.3								
		食品ロス小計	31.588	17.3	55	4.7	28.892	15.8	55	4.7	14.415	18.0	40	6.5								
	<参考>厨芥類(食品廃棄物)中の食品ロスの割合		31.588	39.8	55	30.6	28.892	36.3	55	29.7	14.415	46.2	40	47.1								
	発生抑制・リユース対象物合計		32.418	17.8	59	5.1	29.840	16.3	60	5.2	15.557	19.4	46	7.5								
■ごみ	可燃性捨てる物 (紙くず、布・フラ、ゴム、革・木製品、カゴ・アルミ箔等)	可燃性捨てる物 (紙くず、布・フラ、ゴム、革・木製品、カゴ・アルミ箔等)	51.698	28.5	305	25.9	46.064	25.1	300	25.7	18.722	23.3	120	19.9								
		丸めた新聞紙、何かを包んだ新聞紙	2.381	1.3	30	2.6	1.621	0.9	30	2.6	6.780	8.5	20	3.3								
		紙おむつ ※	2.308	1.3	7	0.6	15	5.206	2.8	25	2.1	59	0.144	0.2	0	0.0	4					
		汚れの激しいプラスチック製容器包装	8.144	4.5	100	8.5	6.416	3.5	25	2.1	3.897	4.9	60	10.0								
		可燃物 小計	64.531	35.6	442	37.6	59.307	32.3	380	32.5	29.543	36.9	200	33.2								
	不燃性捨てる物 (日用品ホトルの残渣、硬いアルミ製品含む)	不燃性捨てる物 (日用品ホトルの残渣、硬いアルミ製品含む)	1.010	0.6	1	0.1	3.404	1.9	3	0.3	0.140	0.2	0	0.0								
		その他水銀含有製品 ※																				
		不燃物 小計	1.010	0.6	1	0.1	3.404	1.9	3	0.3	0.140	0.2	0	0.0								
		ごみ袋(原則有料指定プラ袋)	1.179	0.6	35	3.0	1.309	0.7	35	3.0	0.585	0.7	20	3.3								
		ごみ合計	66.720	36.8	478	40.7	64.020	34.9	418	35.8	30.268	37.8	220	36.5								
【調査ごみ全量】		181.978	100.0	1173	100.0	183.082	100.0	1166	100.0	80.230	100.0	602	100.0									
	プラスチック製容器包装(汚れた物も含む場合) ペットボトル除く	17.642	9.7	351	29.9	19.495	10.6	293	25.1	8.773	10.9	192	31.9									

表7 調査実測値による調査した3つの住宅形式別ごみ組成調査の結果（平成27年度調査結果）

種類	過去の調査結果と比較できる項目(小計)					過去の調査結果と比較できる項目(合計)					食品ロス						
	新住宅地		旧住宅地			新住宅地		旧住宅地			マンション		マンション				
	重量 (kg)	容積 (%)	容積 (%)	容積 (%)	枚数 (枚)	重量 (kg)	容積 (%)	容積 (%)	容積 (%)	枚数 (枚)	重量 (kg)	容積 (%)	容積 (%)	容積 (%)	枚数 (枚)		
■資源化対象	古紙類	きちんと折った新聞紙	0.302	0.1	2	0.2	1.429	0.6	10	0.8	0.833	0.9	3	0.5			
		段ボール(テリウ箱半分以上の大きさ)	0.468	0.2	10	0.9	0.509	0.2	15	1.2	0.231	0.2	2	0.3			
		本・雑誌	2.196	1.0	5	0.4	0.048	0.0	0	0.0	0.939	1.0	2	0.3			
		牛乳パック(アルミコーティング無し) ※	1.333	0.6	25	2.1	41	1.015	0.5	20	1.6	38	0.855	0.9	20	3.3	29
		紙製容器包装(汚れた物や小さな物除く)	10.920	5.1	148	12.7		10.436	4.7	145	11.9		7.671	8.1	110	18.1	
		再生可能な雑紙(ハガキ半分の大きさ以上・禁忌品・汚れた紙除く)	7.142	3.4	65	5.6		8.738	3.9	50	4.1		5.833	6.2	40	6.6	
		小計	22.361	10.4	255	21.9		22.175	9.9	240	19.6		16.362	17.3	177	29.1	
	<何かを包んだ等の新聞紙を含めた古紙類計>	23.618	11.0	270	23.2		24.210	10.8	260	21.2		17.351	18.3	187	30.7		
	古布類	綿製品	0.621	0.3	2	0.2	1.194	0.5	6	0.5	0.032	0.0	0	0.0			
	プラスチック製容器包装類	プラスチック製容器包装(汚れた物や小さな物除く)	12.765	6.0	186	16.0		10.920	4.9	197	16.1		5.881	6.2	107	17.6	
		白色発泡食品トレイ ※	0.089	0.0	5	0.4	14	0.123	0.1	10	0.8	26	0.042	0.0	4	0.7	9
		レジ袋 ※	2.690	1.3	48	4.1	324	2.682	1.2	48	3.9	354	1.059	1.1	23	3.8	152
		ペットボトル	0.423	0.2	10	0.9		0.445	0.2	10	0.8		0.174	0.2	5	0.8	
	小計	15.967	7.5	249	21.4		14.170	6.4	265	21.6		7.156	7.5	139	22.9		
	ガラス類	ワンウエーびん	0.142	0.1	0	0.0											
蛍光管 ※																	
小計	0.142	0.1	0	0.0		0.000	0.0	0	0.0		0.000	0.0	0	0.0			
金属類	なべ・釜等金属製品(複合製品除く)																
	缶(飲料缶、缶詰、缶箱等)						0.062	0.0	0	0.0							
	小型家電(小さな家電製品すべて) ※	1.861	0.9	6	0.5	25	0.118	0.1	0	0.0	4						
	スプレー缶 ※											0.060	0.1	1	0.2	1	
	乾電池 ※	0.132	0.1	0	0.0	14	0.026	0.0	0	0.0	3	0.048	0.1	0	0.0	2	
小計	1.993	1.0	6	0.5		0.206	0.1	0	0.0		0.108	0.2	1	0.2			
陶磁器類	割れている陶磁器、食器以外の陶磁器	0.321	0.2	0	0.0		0.008	0.0	0	0.0							
<参考>資源化対象物合計(食品廃棄物等除く)		41.405	19.5	512	44.0		37.753	16.9	511	41.7		23.658	25.0	317	52.2		
食品廃棄物等	一般厨芥類(流出水分等含む)	78.197	36.8	135	11.6		82.623	37.2	140	11.5		33.015	35.1	60	9.9		
	<参考>手つかず食品を含む食品廃棄物合計	93.336	43.9	180	15.5		95.839	43.1	180	14.8		37.845	40.2	70	11.5		
	剪定枝・生け花	1.151	0.5	6	0.5		4.403	2.0	20	1.6		0.541	0.6	3	0.5		
	小計	79.348	37.3	141	12.1		87.026	39.2	160	13.1		33.556	35.7	63	10.4		
資源化対象物合計(一般厨芥類、剪定枝・生け花を含む)		120.753	56.8	653	56.1		124.779	56.1	671	54.8		57.214	60.7	380	62.6		
<参考>手つかず食品を含む食品廃棄物等を加えた資源化可能物合計		135.892	63.9	698	60.0		137.995	62.0	711	58.1		62.044	65.8	390	64.2		
■発生抑制・リユース対象物	割れていない食器(陶磁器)																
	割れていない食器(ガラス製)																
	衣服(上着、ズボン、スカート)	1.981	0.9	10	0.9		0.743	0.3	5	0.4		0.765	0.8	4	0.7		
	リターナブルびん																
	くつ・靴(スリッパは除く、革製に限定しない)	2.799	1.3	10	0.9		0.843	0.4	8	0.7		1.659	1.8	7	1.2		
	手つかず食品(1/2以上原型保持)	15.139	7.1	45	3.9		13.216	5.9	40	3.3		4.830	5.1	10	1.6		
発生抑制・リユース対象物合計		19.919	9.3	65	5.7		14.802	6.6	53	4.4		7.254	7.7	21	3.5		
■ごみ	可燃性捨てる物(紙くず、布・プラスチック・革・木製品、カゴ・アルミ箔等)	丸めた新聞紙、何かを包んだ新聞紙	1.257	0.6	15	1.3		2.035	0.9	20	1.6		0.989	1.0	10	1.6	
		紙おむつ ※	5.999	2.8	15	1.3	38	12.491	5.6	30	2.5	78	2.819	3.0	10	1.6	22
		汚れの激しいプラスチック製容器包装	6.546	3.1	61	5.2		8.743	3.9	98	8.0		3.862	4.1	52	8.6	
		可燃物 小計	68.202	32.1	411	35.3		80.961	36.3	463	38.0		28.739	30.6	187	30.6	
	不燃性捨てる物(日用品ボトルの残渣、硬いアルミ製品含む)	その他水銀含有製品 ※															
		不燃物 小計	2.373	1.1	4	0.3		0.679	0.3	4	0.3		0.210	0.2	0	0.0	
	ごみ袋(原則有料指定プラ袋)		1.545	0.7	30	2.6		1.663	0.7	30	2.5		0.797	0.8	20	3.3	
	ごみ合計		72.120	33.9	445	38.2		83.303	37.3	497	40.8		29.746	31.6	207	33.9	
【調査ごみ全量】		212.792	100.0	1,163	100.0		222.884	100.0	1,221	100.0		94.214	100.0	608	100.0		
プラスチック製容器包装(汚れた物も含む場合) ペットボトル除く		22.090	10.4	300	25.7	338	22.468	10.1	353	28.8	380	10.844	11.4	186	30.7	161	

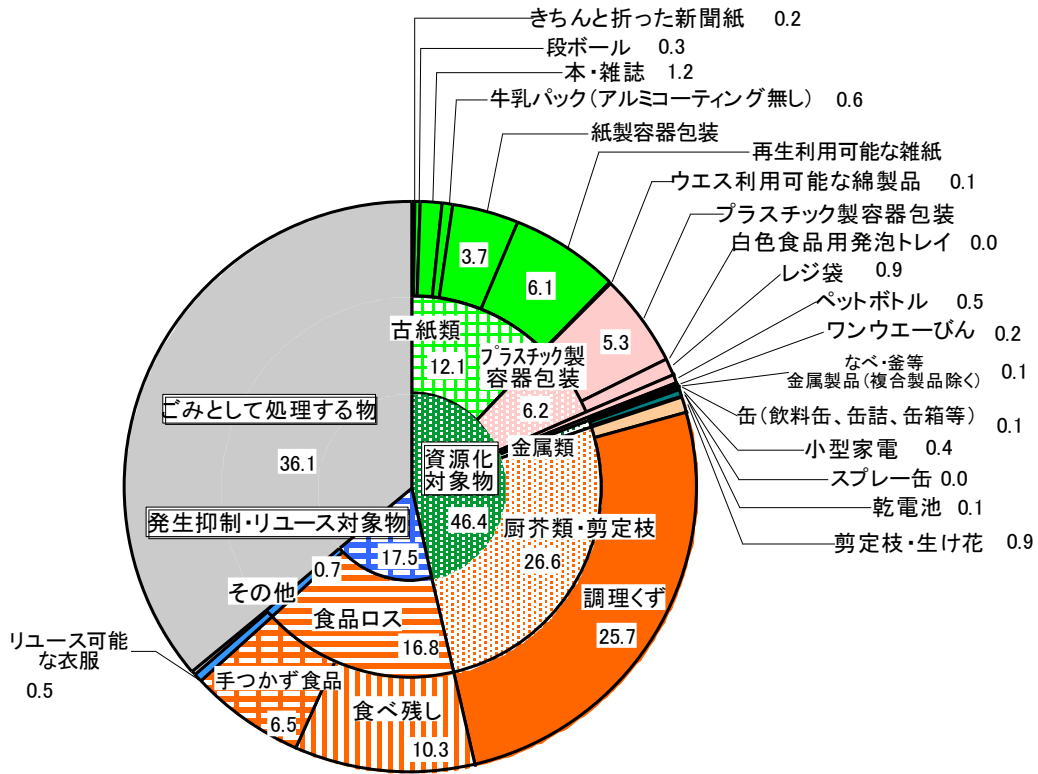
3) 生駒市全体平均による燃えるごみ組成の実態

「1) 市全体の燃えるごみ組成の推定方法」で説明した方法による生駒市全体平均による燃えるごみ組成の実態を図2、表8に示した。なお、図表中には今年度調査結果とともに平成27年度調査結果も示している。また、市全体の燃えるごみ組成の変化の記述方法は地区別に述べた方法と同じである。

- ①(きちんと折った)新聞紙、段ボール、本・雑誌、牛乳パックといった従来から分別・回収されていた古紙類については、1.9%(重量割合によるH27調査結果、従来からの古紙の割合計)→2.3%(今年度、同)と微増傾向であるが燃えるごみ中への排出量としては少ない。
- ②紙製容器包装や再生可能な紙のようなミックスペーパー(雑がみ)系の古紙類については、9.8%(H27)→9.8%(今年度)で、横ばいである。しかし、燃えるごみ中に占める割合は1割程度を占めており、今後とも市民へ分別行動の浸透が必要である。
- ③プラスチック製容器包装については、表8の最下段にきれいなプラスチック製容器包装と汚れの激しいプラスチック製容器包装を合わせた燃えるごみ中のプラスチック製容器包装の割合を示しているが、10.4%(H27)→10.3%(今年度)となって、排出割合は横ばいである。ただし、きれいなプラスチック製容器包装(白色発泡食品トレイ、レジ袋含む)だけで見ると6.8%(H27)→6.2%(今年度)で若干減っている。なお、表8には燃えるごみ中の排出量に換算したプラスチック製容器包装(汚れの激しい物も含む)の排出量を記しているが、H27のプラスチック製容器包装排出量は2,008tである。一方、これに相当する今年度の排出量は、1,895tで、若干減少している。プラスチック製容器包装(汚れの激しい物含む)の割合はほぼ横ばいで推移しているが、ミックスペーパー(雑がみ)系の古紙類と同様に、燃えるごみ中に占める割合は1割程度を占めており、今後とも市民へ分別行動の浸透が必要である。
- ④レジ袋については、1.2%(H27)→0.9%(今年度)と、若干減少している。平成26年6月から実施している、市内すべてのスーパーマーケットの食品レジにおけるレジ袋の無料配布の原則禁止の効果が現れているものと思われる。
- ⑤手つかず食品等の食品ロスも含めた厨芥類の割合は、表8に示すように42.9%(H27)→42.5%(今年度)で、ほぼ横ばいである。
- ⑥無駄な食材を買わない、冷蔵庫にある食材を活用して料理を作るなどにより発生抑制することが必要とされている手つかず食品は、6.2%(H27)→6.5%(今年度)で、ほぼ横ばいであり、今後とも手つかず食品を含む食品ロスの削減対策の拡充が必要である。
- ⑦その他として、ペットボトル、びん、缶等の飲料・食品の容器は、もともと分別排出が徹底されていることもあり、燃えるごみ中への排出割合はかなり低い。

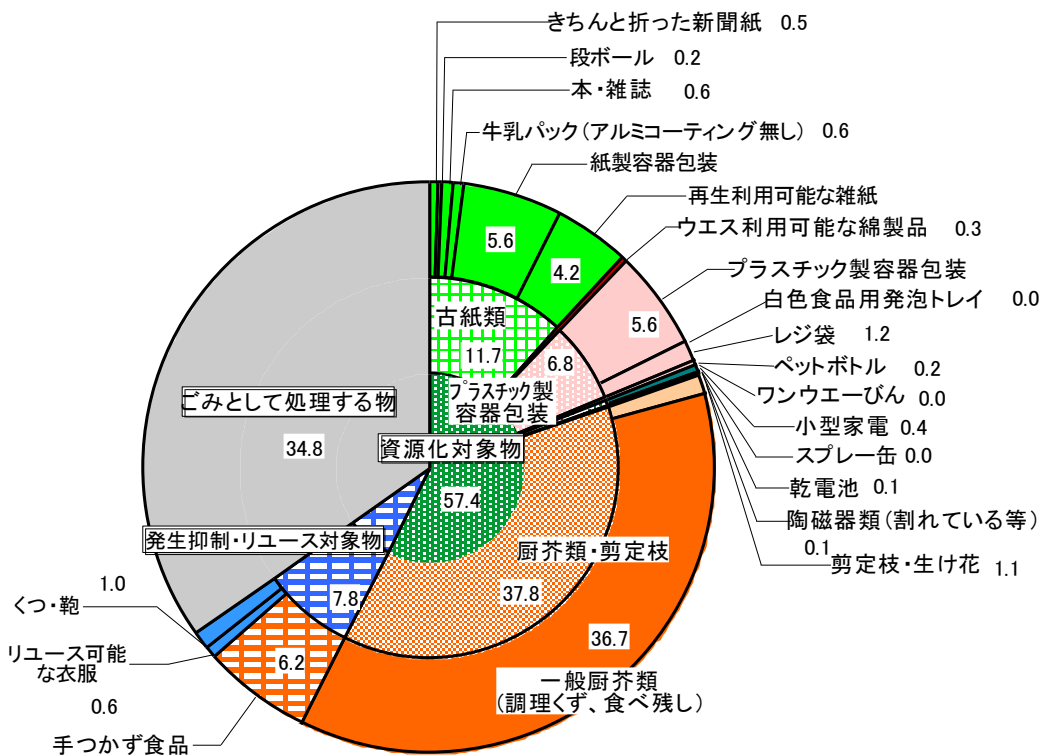
図2 生駒市全体平均による燃えるごみ組成の実態

[今年度調査]



【総燃えるごみ量 18,233 t】

[平成27年度調査]



【総燃えるごみ量 19,308 t】

表8 生駒市全体平均による燃えるごみ組成の実態

過去の調査結果と比較できる項目 (小計) 過去の調査結果と比較できる項目 (合計) 食品ロス

種類		生駒市全体平均(令和元年度調査)					
		重量		容積		枚数 (千枚)	
		(t)	(%)	(千L)	(%)		
■資源化対象	古紙類	きちんと折った新聞紙	30	0.2	149	0.1	
		段ボール(テイク箱半分以上の大きさ)	54	0.3	1,111	0.9	
		本・雑誌	219	1.2	475	0.4	
		牛乳パック(アルミコーティング無し) ※	105	0.6	1,652	1.4	3,419
		紙製容器包装(汚れた物や小さな物除く)	676	3.7	14,415	11.9	
		再生可能な雑紙 (ハガキ半分の大きさ以上、禁忌品・汚れた紙除く)	1,110	6.1	6,504	5.4	
		小計	2,194	12.1	24,306	20.1	
		<何かを包んだ等の新聞紙を含めた場合の古紙類計>	2,671	14.7	27,650	22.9	
	古布類	綿製品	15	0.1	104	0.1	
	プラスチック製 容器包装類	プラスチック製容器包装(汚れた物や小さな物除く)	973	5.3	21,999	18.2	
		白色発泡食品トレイ ※	7	0.0	886	0.7	1,567
		レジ袋 ※	155	0.9	3,919	3.2	22,779
		ペットボトル	84	0.5	3,133	2.6	
		小計	1,219	6.7	29,937	24.7	
	ガラス類	ワンウエーびん	33	0.2	48	0.0	
		蛍光管 ※					
	小計	33	0.2	48	0.0		
	金属類	なべ・釜等金属製品(複合製品除く)	11	0.1	0	0.0	
		缶(飲料缶、缶詰、缶箱等)	19	0.1	390	0.3	
		小型家電(小さな家電製品すべて) ※	64	0.4	320	0.3	979
スプレー缶 ※		7	0.0	48	0.0	123	
乾電池 ※		21	0.1	0	0.0	1,227	
小計	122	0.7	758	0.6			
陶磁器類	割れている陶磁器、食器以外の陶磁器						
<参考>資源化対象物合計(食品廃棄物等除く)		3,583	19.8	55,153	45.5		
食品廃棄物等	調理くず(コーヒー、茶殻等含む)	4,697	25.7	12,237	10.1		
	<参考>食品ロスを含む食品廃棄物合計	7,765	42.5	18,435	15.2		
	剪定枝・生け花	156	0.9	1,002	0.8		
	小計	4,853	26.6	13,239	10.9		
資源化対象物合計(食品ロスを除く調理くず含む)		8,436	46.4	68,392	56.4		
<参考>食品ロスを含む食品廃棄物等加えた資源化可能物合計		11,504	63.2	74,590	61.5		
■発生抑制・リユース対象物	割れていない食器(陶磁器)						
	割れていない食器(ガラス製)						
	衣服(上着、ズボン、スカート)	89	0.5	467	0.4		
	リターナルびん						
	くつ・靴(スリッパは除く、革製に限定しない)	36	0.2	233	0.2		
	食品ロス	食べ残し(分類不能、流出水分等含む)	1,887	10.3	2,111	1.7	
		手つかず食品(1/2以上原型保持)	1,181	6.5	4,087	3.4	
	食品ロス小計	3,068	16.8	6,198	5.1		
	<参考>厨芥類(食品廃棄物)中の食品ロスの割合	3,068	39.5	6,198	33.6		
	発生抑制・リユース対象物合計		3,193	17.5	6,898	5.7	
■ごみ	可燃性捨てる物 (紙くず、布・フタゴム・革・木製品、カビ・アルミ箔等)	燃焼性捨てる物 (新聞紙、何かを包んだ新聞紙)	474	2.6	3,344	2.8	
		紙おむつ ※	309	1.7	1,272	1.1	3,178
		汚れた激しいプラスチック製容器包装	760	4.1	7,657	6.3	
		小計	6,292	34.3	41,831	34.6	
	不燃性捨てる物 (日用品ボトルの残渣、硬いアルミ製品含む)	その他水銀含有製品 ※	192	1.1	188	0.2	
		小計	192	1.1	188	0.2	
	ごみ袋(原則有料指定プラ袋)	120	0.7	3,716	3.1		
	ごみ合計		6,604	36.1	45,735	37.9	
	【調査ごみ全量】		18,233	100.0	121,025	100.0	
	プラスチック製容器包装(汚れた物も含む場合)		1,895	10.3	34,461	28.4	

種類		生駒市全体平均(平成27年度調査)					
		重量		容積		枚数 (千枚)	
		(t)	(%)	(千L)	(%)		
■資源化対象	古紙類	きちんと折った新聞紙	97	0.5	547	0.5	
		段ボール(テイク箱半分以上の大きさ)	39	0.2	985	0.9	
		本・雑誌	116	0.6	219	0.2	
		牛乳パック(アルミコーティング無し) ※	116	0.6	2,407	2.2	3,792
		紙製容器包装(汚れた物や小さな物除く)	1,081	5.6	14,878	13.6	
		再生可能な雑紙 (ハガキ半分の大きさ以上、禁忌品・汚れた紙除く)	811	4.2	5,689	5.2	
		小計	2,260	11.7	24,725	22.6	
		<何かを包んだ等の新聞紙を含めた古紙類計>	2,414	12.5	26,366	24.1	
	古布類	綿製品	58	0.3	328	0.3	
	プラスチック製 容器包装類	プラスチック製容器包装(汚れた物や小さな物除く)	1,081	5.6	18,050	16.5	
		白色発泡食品トレイ ※	0	0.0	656	0.6	1,699
		レジ袋 ※	232	1.2	4,376	4.0	28,719
		ペットボトル	39	0.2	875	0.8	
		小計	1,352	7.0	23,957	21.9	
	ガラス類	ワンウエーびん	0	0.0	0	0.0	
		蛍光管 ※					
	小計	0	0.0	0	0.0		
	金属類	なべ・釜等金属製品(複合製品除く)					
		缶(飲料缶、缶詰、缶箱等)					
		小型家電(小さな家電製品すべて) ※	77	0.4	219	0.2	
スプレー缶 ※		0	0.0	0	0.0	40	
乾電池 ※		19	0.1	0	0.0	644	
小計	96	0.5	219	0.2			
陶磁器類	割れている陶磁器、食器以外の陶磁器	19	0.1	0	0.0		
<参考>資源化対象物合計(食品廃棄物等除く)		3,785	19.6	49,229	45.0		
食品廃棄物等	一般厨芥類(流出水分等含む)	7,086	36.7	12,252	11.2		
	<参考>手つかず食品を含む厨芥類(食品廃棄物)合計	8,283	42.9	15,643	14.3		
	剪定枝・生け花	212	1.1	985	0.9		
小計	7,298	37.8	13,237	12.1			
資源化対象物合計		11,083	57.4	62,466	57.1		
<参考>手つかず食品を含む食品廃棄物等 を加えた資源化可能物合計		12,280	63.6	65,857	60.2		
■発生抑制・リユース対象物	割れていない食器(陶磁器)						
	割れていない食器(ガラス製)						
	衣服(上着、ズボン、スカート)	116	0.6	766	0.7		
	リターナルびん						
	くつ・靴(スリッパは除く、革製に限定しない)	193	1.0	985	0.9		
	手つかず食品(1/2以上原型保持)	1,197	6.2	3,391	3.1		
発生抑制・リユース対象物合計		1,506	7.8	5,142	4.7		
■ごみ	可燃性捨てる物 (紙くず、布・フタゴム・革・木製品、カビ・アルミ箔等)	燃焼性捨てる物 (新聞紙、何かを包んだ新聞紙)	154	0.8	1,641	1.5	
		紙おむつ ※	772	4.0	1,969	1.8	4,765
		汚れた激しいプラスチック製容器包装	695	3.6	7,767	7.1	
		小計	6,468	33.5	38,615	35.3	
	不燃性捨てる物 (日用品ボトルの残渣、硬いアルミ製品含む)	その他水銀含有製品 ※	116	0.6	219	0.2	
		小計	116	0.6	219	0.2	
	ごみ袋(原則有料指定プラ袋)	135	0.7	2,954	2.7		
ごみ合計		6,719	34.8	41,788	38.2		
【調査ごみ全量】		19,308	100.0	109,396	100.0		
プラスチック製容器包装(汚れた物も含む場合)		2,008	10.4	30,849	28.2		

4)食品ロスの排出実態

食品ロスの排出実態を表9、図3に整理した。新住宅地約40%、旧住宅地約36%、マンション約46%で、家族構成の違い等が影響しているためか食べ残しの割合が高いマンションにおける食品ロスの割合が最も高かった。市全体平均では約40%であった。なお、他都市の調査結果では京都市が約37%、京田辺市が約46%である。

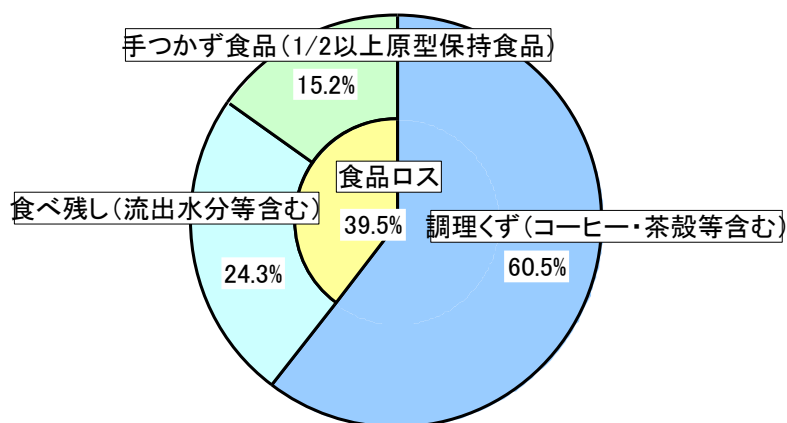
表9 食品ロスの排出実態（重量比）

		食品ロス		調理くず (コーヒー・茶殻等含む)	厨芥類 (食品廃棄物合計)	調査ごみ全体に占める 厨芥類(食品廃棄物合計) の割合	
		食べ残し	手つかず食品 (流出水分等含む)				
生駒市 (今年度調査)	新住宅地	24.8%	15.0%	39.8%	60.2%	100.0%	43.6%
	旧住宅地	18.5%	17.8%	36.3%	63.7%	100.0%	43.5%
	マンション	35.9%	10.3%	46.2%	53.8%	100.0%	39.0%
	市平均	24.3%	15.2%	39.5%	60.5%	100.0%	42.5%
京都市 (平成30年度)	市平均	21.8%	14.7%	36.5%	63.5%	100.0%	38.3%
京田辺市 (平成30年度)	市平均	24.3%	21.7%	46.0%	54.0%	100.0%	41.3%

(出典)京都市は京都市ホームページ(燃やすごみの内訳(約18万トン)の内訳)から。京田辺市は「平成30年度京田辺市ごみ組成調査」(京田辺市 H31.3)から。

注)京田辺市の「過剰除去・残渣」(1.2%)は「手つかず食料品」に含めている。

図3 厨芥類（食品廃棄物）中の食品ロスの排出実態（市全体平均）



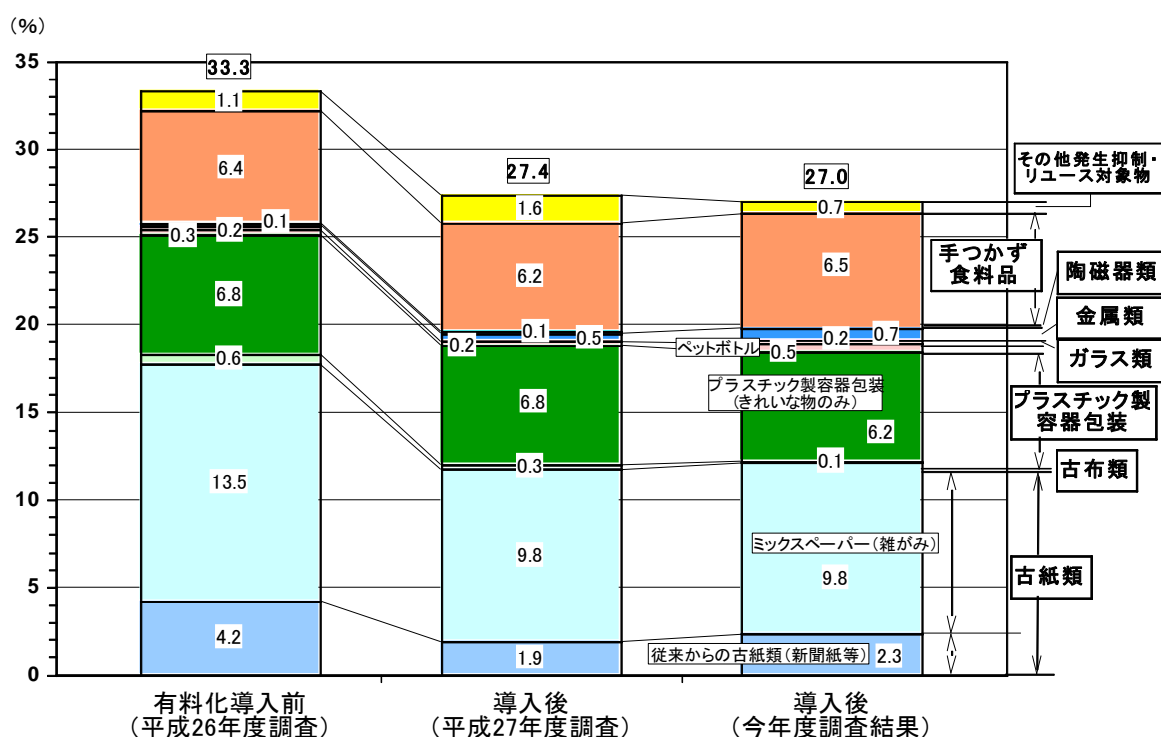
4. 有料化導入によるごみの減量効果と今後のごみ減量に向けて

生駒市では平成27年4月1日から燃えるごみ、燃えないごみ、大型ごみの有料化を実施した。有料化導入以降の燃えるごみ組成（重量割合）の変化を図3に整理した。

有料化導入前の平成26年度の調査結果と導入後の平成27年度及び今年度の調査結果を見ると、導入前に約18%を占めていた古紙類（従来からの古紙類とミックスペーパー（雑がみ）の計）は、導入後、約12%（平成27年度、今年度）となり、有料化が市民の分別行動を促進していることがうかがえる。

しかし、それ以外の資源化対象物（プラスチック製容器包装等）の割合は、有料化導入以降ではほぼ横ばいである。また、今日、その排出量の削減が大きな社会問題となっている食品ロスの動向を手つかず食品でみると、平成26年度以降今日まで6%前後で推移している。さらに、衣服や靴等のリユースにより排出量の抑制が可能な物もほぼ横ばいで推移している。

図4 有料化前後のごみ組成の変化による有料化導入によるごみの減量効果



注1)資源化対象物や発生抑制・リユース対象物の詳しい内容は表8を参照のこと。
 2)堆肥化による資源化の対象となる「食品廃棄物等」は含まれていない。

図4に示したように、有料化導入直後は家庭ごみの減量効果に有料化は大きく影響したが、それ以降、燃えるごみの量はほぼ横ばいで増減なしの状況となっている。これは、表9の分別収集や集団回収による資源の回収量が、平成27年度以降、それほど増えていないこととも一致している。

しかし、表8に整理した燃えるごみ中に混入する資源の量を見ても分かるように、ミックスペーパー（雑がみ）は今年度調査で約1,800t含まれており、プラスチック製容器包装はペットボトルも含めると約1,200t含まれている。これら以外のびん、缶、金属製品、小型家電、陶磁器

類等の資源化が可能な物を加えると、一般厨芥類・剪定枝等を除いて約3,600t含まれており、この半分が分別され資源化されるとすると、さらに10%程度 $((3,600\text{ t} \times 50\%) \div 18,233\text{ t}$ (H30燃やすごみ排出量) $) = 9.9\%$ 、燃えるごみの削減が可能である。これに、一般厨芥類・剪定枝等の堆肥化等による削減が加わればさらに燃えるごみは削減可能である。ただし、その実現のためには市民の分別意識の更なる向上が不可欠である。

また、表9に示したように食品ロスは食品廃棄物の約4割程度(約3,100t 表8参照)含まれており、買い物行動や食生活の見直しによる削減が必要である。

以上のように、資源の分別排出のさらなる浸透と発生抑制行動の定着を今後とも推進し、さらに一層のごみ減量を推進することが大切である。

表10 燃えるごみ量と分別収集や集団回収による資源の回収量の比較

	有料化導入前	有料化導入後				増減率 (H30/H26)	備考
	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度		
燃えるごみ	23,407t	19,308t	18,987t	19,186t	18,233t	△22%	
一般古紙	3,979t	4,893t	4,957t	4,844t	4,535t	+114%	新聞、雑誌、段ボール、牛乳パック
ミックスペーパー (雑がみ)	20t	117t	173t	169t	135t	+675%	
古着・古布	232t	386t	392t	416t	428t	+184%	
プラスチック製容器包装	673t	865t	879t	881t	885t	+132%	
ペットボトル	226t	240t	248t	250t	262t	+116%	
びん・缶・われもの	1,470t	1,308t	1,305t	1,292t	1,297t	△12%	陶磁器・ガラス製食器等含む
くつ・かばん	15t	41t	52t	51t	90t	+600%	

注)集団回収量含む。

<参考>家庭における食品ロスの削減対策の例

①市民個人の行動(行政による情報提供・支援等含む)

- ・贈答品等の賞味期限の長いもらい物のバザー、フードドライブ、食品トロック(物々交換)等による食品ロスの削減
- ・消費・賞味期限についての理解向上
- ・冷蔵庫内の食料品点検と食料品の有効活用
- ・衝動買い等をしないで、無駄の少ない食品購入の浸透
- ・家の食品廃棄物の廃棄行動の振り返りのため自己診断
(1ヶ月程度手つかず食料品の廃棄量のチェックとその理由等を再確認)
- ・エコクッキング等による余り物食材の有効活用の浸透
- ・食料品の保存期間を長くする工夫の浸透

など

②食料品販売店・飲食店の行動

- ・3つ抱き合わせ販売、値引き販売等の抑制による、無駄な食料品を消費者に押しつけないような売り方の浸透
- ・消費者が必要な量のみを購入できるように、ばら売り、量り売りの拡大

- ・家庭における食品ロス削減の行動の必要性、消費・賞味期限の違い、余った食材の活用レシピ等を消費者へ情報提供
- ・生協等における冷蔵庫などの食材を確認できる「食材管理アプリ」の普及による手つかず食料品の廃棄量削減
- ・小盛りのメニューをつくる、ご飯のおかわりを無料にする等のお客が食べきれぬ量の選択可能なシステムの形成
- ・提供する食事のボリュームの説明や写真等でお客にボリュームイメージ提供
- ・宴会等では参加者の年齢や好みに合わせ、食べ残しの少ない料理を提供
- ・持ち帰り容器の設置等持ち帰りへの対応拡充
- ・適正な仕込み量の把握
- ・作り置きをせずに、注文を受けてからの調理に可能な範囲で変更
- ・生駒市食品ロス削減協力店の飲食店への拡大

など

資料1 地区別燃えるごみ袋の種類別排出状況（今年度調査）

		7%有料袋	15%有料袋	30%有料袋	45%有料袋	総計
新住宅地	ごみ袋数	7	11	28	10	56
	重量(kg)	14.120	26.612	99.000	42.246	181.978
	容積(%)	39	133	495	310	977
	1袋当たりの重さ(kg/袋)	2.0	2.4	3.5	4.2	3.2
	1袋当たりの容積(%/袋)	5.6	12.1	17.7	31.0	17.4
	見かけ比重	0.362	0.200	0.200	0.136	0.186
旧住宅地	ごみ袋数	12	15	24	14	65
	重量(kg)	17.312	33.722	76.216	55.832	183.082
	容積(%)	68	153	455	390	1,066
	1袋当たりの重さ(kg/袋)	1.4	2.2	3.2	4.0	2.8
	1袋当たりの容積(%/袋)	5.7	10.2	19.0	27.9	16.4
	見かけ比重	0.255	0.220	0.168	0.143	0.172
マンション	ごみ袋数	5	11	10	5	31
	重量(kg)	9.042	20.914	25.698	24.576	80.230
	容積(%)	30	120	190	155	495
	1袋当たりの重さ(kg/袋)	1.8	1.9	2.6	4.9	2.6
	1袋当たりの容積(%/袋)	6.0	10.9	19.0	31.0	16.0
	見かけ比重	0.301	0.174	0.135	0.159	0.162
(単純合計) 3地区合計	ごみ袋数	24	37	62	29	152
	重量(kg)	40.474	81.248	200.914	122.654	445.290
	容積(%)	137	406	1,140	855	2,538
	1袋当たりの重さ(kg/袋)	1.7	2.2	3.2	4.2	2.9
	1袋当たりの容積(%/袋)	5.7	11.0	18.4	29.5	16.7
	見かけ比重	0.295	0.200	0.176	0.143	0.175

注) 調査対象3地区の単純合計・平均値である。また、容積は分類作業前の軽く上からならす程度の圧力で分類作業後の容積より大きい。

資料2 地区別燃えるごみ袋の種類別排出状況（平成27年度調査）

		7%有料袋	15%有料袋	30%有料袋	45%有料袋	総計
新住宅地	ごみ袋数	9	23	27	21	80
	重量(kg)	11.530	45.880	79.090	76.292	212.792
	容積(ℓ)	50	229	488	478	1,245
	1袋当たりの重さ(kg/袋)	1.3	2.0	2.9	3.6	2.7
	1袋当たりの容積(ℓ/袋)	5.6	10.0	18.1	22.8	15.6
	見かけ比重	0.231	0.200	0.162	0.160	0.171
旧住宅地	ごみ袋数	10	17	31	22	80
	重量(kg)	17.268	39.548	88.114	77.954	222.884
	容積(ℓ)	62	205	500	580	1,347
	1袋当たりの重さ(kg/袋)	1.7	2.3	2.8	3.5	2.8
	1袋当たりの容積(ℓ/袋)	6.2	12.1	16.1	26.4	16.8
	見かけ比重	0.279	0.193	0.176	0.134	0.165
マンション	ごみ袋数	9	6	12	13	40
	重量(kg)	10.664	8.988	30.272	44.290	94.214
	容積(ℓ)	47	58	166	310	581
	1袋当たりの重さ(kg/袋)	1.2	1.5	2.5	3.4	2.4
	1袋当たりの容積(ℓ/袋)	5.2	9.7	13.8	23.8	14.5
	見かけ比重	0.227	0.155	0.182	0.143	0.162
(3地区合計) 単純合計	ごみ袋数	28	46	70	56	200
	重量(kg)	39.462	94.416	197.476	198.536	529.890
	容積(ℓ)	159	492	1,154	1,368	3,173
	1袋当たりの重さ(kg/袋)	1.4	2.1	2.8	3.5	2.6
	1袋当たりの容積(ℓ/袋)	5.7	10.7	16.5	24.4	15.9
	見かけ比重	0.248	0.192	0.171	0.145	0.167

注) 調査対象3地区の単純合計・平均値である。また、容積は分類作業前の軽く上からならす程度の圧力で分類作業後の容積より大きい。

